

# 11のキーワードでふりかえる米国調査

1. 学びのキーワード by 岡本享二

2. 学びのキーワード by 中野民夫



# 11のキーワードでふりかえる米国調査

帰りの飛行機で、中野と岡本が隣り合わせに座り、印象に残ったことをキーワードでひとつずつ出し合い、語り合ったところ、偶然11ずつだった。それぞれの視点からの印象の記録があるので、その時のメモを元にまとめてみたい。

## ■学びのキーワード by 岡本享二

### 1. ソーシャルジャスティス (Social Justice)

環境やCSR一般のことを問う時に大きな意味で Social Justice なる言葉が頻繁に使われていた。行く先々で活動内容とこの言葉の意味を問うてみた。

私自身は米国に滞在していた1990年代前半、当時有名なO.J.シンプソン事件の時、同僚のアメリカ人同士が“Where is Justice?”などと騒いでいてこの言葉を強く印象付けられていた。Social Justice 《社会正義》のため、というと環境やCSRが、もう少し穏やかに語れるかなあ、と思う。

### 2. シェア・ザ・ロード (Share the Road)

今回訪れたサンフランシスコ、オークランド一帯では自転車人口が多くなっていた。道路の所々にこの看板が立ててあって微笑ましい。「自転車族に対しても道を譲って安全に走行しましょう」という呼びかけである。

タヌキや鹿に対しても同じように「車だけの道路ではありませんよ。動物にも注意してね」と呼びかけているような看板もある。

政府や大企業からの行動ではなく、市民一人ひとりからの行動が世の中を動かすことが大切なのだ。私自身、日本に戻ってから車を運転する時、この言葉を思い出してGentleな運転になるのであった。

### 3. この湖は泳げます。

日本なら「危険だから入るな。泳ぐな」と書かれていて不思議のない湖に、「この湖は泳げます」と示された看板がある。現に、二人の小学生を連れてきた夫婦がまさに湖に入ろうとしている。素晴らしい自己責任の取り方を示す看板だと思った。

どこにも責任がなくてうやむやになるのが日本。ここは水がきれいだから泳げるよ。冷たいけど、親は子どもを見て、自分で責任もってやって。

オバマのようにNoでなくYes we canで、ものごとは進む。

### 4. 自転車 Only

ハイさん（P. 57 参照）曰く「若者の中には自転車オンリーが増えて来た」。ベイエリアで自転車

族が増えているのは金持ちの道楽、気分転換、身体を鍛えるためと思っていたが、新しいトレンドとして若い人は車を持たず、自転車や地下鉄・バスを使っているということに驚きを覚えた。サイクリングウエアーに身を包み、もちろん頭にはヘルメット。そう、本気で自転車に乗っているのだ。でなければ、あの坂の多いサンフランシスコを颯爽と駆け登るわけには行くまい。老若男女を問わず「苦しくて、楽しくて、馬鹿馬鹿しくて、かつこいい。(忌野清志の言葉)」自転車族が確実に増加していた。



## 5. タバコ全面禁止

2008年のイギリス調査でも今回のアメリカ調査でも禁煙は徹底されつつあることが窺えた。WHOの勧告以来いろんな問題点が見えてきたタバコの害について調査を科学者に依頼すると、科学者の9割はタバコ会社からお金をもらっていたという過去の実態。タバコ会社に調査が入れば隠す体質もあったそうだ。

今は正確に害が把握されている。後は日本政府がアクションを取らないことが問題だ。政府が禁止をしないと、各自治体で独自の条例を作り、お店ごとに禁煙、分煙、喫煙OKのちぐはぐが許され混乱が起きてしまう。

## 6. I am that

不思議だなあと思ったのは、ハワードさんの生き方、生活手法にすっかり感心して、たまたま彼の書斎でこの本が気になって彼に「“I am that”ってなんですか」と聞いた。私自身が米エリアにおける調査旅行でこの一週間、体感したことが、まさにこの言葉にあったのだ。今回体験したことのすべてがこの一言にある不思議な巡り合わせ。インターネットで140万もヒットするので、ぜひご一読願いたい。400ページにわたる本文もPDFでコピーできる！



## 7. 8つある枕は2つ3つなら使えるが、残りは蹴飛ばすだけ。

某日系ホテルに泊まったとき枕がダブルサイズのベッドに8つもあった。過ぎたるは及ばざるごとし。大布無包・大角無辺・大音無声・瞬時無間。こんな言葉（うろ覚え）を思い出すほど、環境と名を借りた無駄が多いのが現実ではなかろうか。

新たな環境対応をプラスするより生活を見直しマイナスの発想が求められるのではないだろうか。

## 8. 8から10階層もあるサプライチェーン

グリーンウォッシュの典型的な例。大企業はネクタイを締めた人が会議室で「うちは環境守るからこうだよとアグリーメントを結ぶ」が、その下請け、孫請け、その先になるといつのまにか忘れられ、児童労働や低賃金の労働者がはびこる。それが8～10段階もあると聞かされて、これが世界の現状だなあ、と痛感。まだまだ我々はやるべきことがある。まだまだ我々は目の前の現象しか見ていない。

## 9. 100種類のパッケージが7種類のパッケージ

ボニー（hp:P. 56 参照）が、環境のために100種類のパッケージがあったのを工夫して、7種類にした。当たり前のことだが、これからは生産物が自然に還る方向に進んでゆく。ヨーロッパでは、瓶は数種類に限られている。日本ほどあらゆる種類が作られている所はない。美的にはいいかもしれないが、これからはあらゆるところに、こういう発想が必要。

## 10. ITで新聞や雑誌がなくなる

時代が大きく変わっている。新聞雑誌だけでなく、ITによって環境とCSRの考え方も、これまでの企業のありようからものすごく変わって来る。今までのモメンタムで考えるより、もっと宇宙とかそういう発想で考えなければならないのでは。農業革命、産業革命があって、三番目はIT革命ではない。環境革命こそが三番目の革命だ。

## 11. ITでコピー

IT時代は、ひとついいものを作れば、それを全世界に拡げることができる。コピーレフトと同じ。今までいいもの作ってもそれを世界に広めるのにすごく時間がかかった。逆にIT時代はそれをすぐに広めることができる。

早く Fermentation Theory を確立したい。

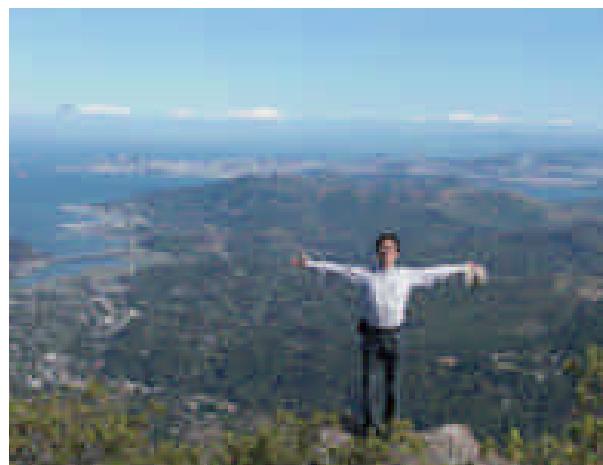
## ■学びのキーワード by 中野民夫

### 1. New Beginning

1989年から2年半を過ごしたベイエリアを新しい仲間と訪問。新しい人々にも会ったし、かつての恩師たちにも再会した。Mt. Tamの頂上でこの地に魅せられてから20年。あっという間のような、いろいろあったような。一巡りして、持続可能な社会への模索に向けて、また何かが新たに始まっていることを実感。

### 2. 自然を体現する

アンナ・ハルプリンの野外ステージでの彼女のジェスチャーは、まさに自然を、いのちを、体現しているようだった。動き回るダンスではなく、じっと佇むスタイル・ダンスで、ある時は朽ちた巨木に自らなりきり、ある時は波打ち際で波に身を任せて漂ったり。90歳を超える存在が醸し出す自然な凄さを痛感。



### 3. Actualization 撫の心を体現する。

バス停に立っているだけで何かがはっきりと違っていたという鈴木俊隆老師（P. 34 参照）。修行を極めていくと、やはり存在自身が深まっていくのだろう。何事も、頭で理解するだけでなく、存在の質のレベルまで実際に体現したいものだ。

### 4. Tolerance 寛容になる。

他者に対してだけでなく、自分の中で起こる考え方や欲望、感情や心の動きにも、寛容になることが大事。思い通りに行かない人生（人生は苦なり）の中で、常に「気づき」の心を持ち続け、自他への寛容の精神を保ちたいものだ。

### 5. U ターン only

ハワードのパートナーとの関係性に関する本のエッセンスを尋ねたら、この一言。「相手に嫌なところをみつけたら、責める前にまず自分を見よ」と。さらには、「いかなるときでもパートナーを変えようと思うな」とも。世界は自分の鏡と言うが、特に親しい関係ではこれが難しい。

### 6. 一人ではできないことで、私たちが一緒になればやれることは何だろう？

ゴールデンゲート・インスティテュートのダイアン（元ルーカスフィルム）たちのスローガン。

主催する「流れを変える」会議では、企業や NGO や行政など、多様な人たちの対話やコラボレーションにこそ価値を見る。人が集まる意味はそこにある。

## 7. 感謝から始める。

ジョアンナ・メイシー（P. 51 参照）の「つなぎ直す仕事」の始めは、まず「感謝」から始める。こうして生き、悩み、集い、出会っているありがたさ。それから「世界への痛みに敬意を払う」（それぞれが見たり感じたりしている真実を語る）。そして新しい目（世界を外からではなく内から観る）で世界を見直し、行動する。

## 8. グリーンウォッシュだっていいじゃない。ムーブメントのプロセスなのだから。

hp の環境 CSR 責任者のボニーさんは、批判されがちな「見せかけのエコ」も否定しない。上げ足を取って、大きなエコへの動きをくじくよりも、大きな流れを大事にしようと。前向きに考えるある種の楽天主義、ポジティブ発想だ。

## 9. Stand by me

カール・アンソニー（P. 53 参照）のビデオ作品。ニューオリンズの黒人から始まって、世界中の街角でいろいろな人が、延々とリレーしてこのひとつの曲を歌う。そう、「いいからそこにいて！」こそ、人々が発したい究極のメッセージではないか。

## 10. 同じ船に乗っているから、ケンカする。そうでなかつたら追い出すだけ。

パロマと享二の確執について 2 人がしっかり話し合ったことに対して一言。大事な友人だから言いたくとも言う。同じ船に乗る同志だからケンカする。そこで大輔、「で、その船はどこへ行くの？」いい質問です（私たちが地球の子どもであり、宇宙の子どもであることを思い出すこと、だとぼくは思うけど）。

## 11. 完璧な人生。なんの文句もないよ。

ビーチの近くの簡素な家に住み、朝から瞑想して山を走ってサウナに入る。日に二回は犬と一緒に散歩。コンサルティングの仕事のある日だけ近くに出かける。ない日は石を黙々と彫刻する。「完璧な人生だね？」「おれもそう思う。何の不満もないよ」とハワード。恐れ入りました。享二曰く「有名じゃないのがいい」。

